



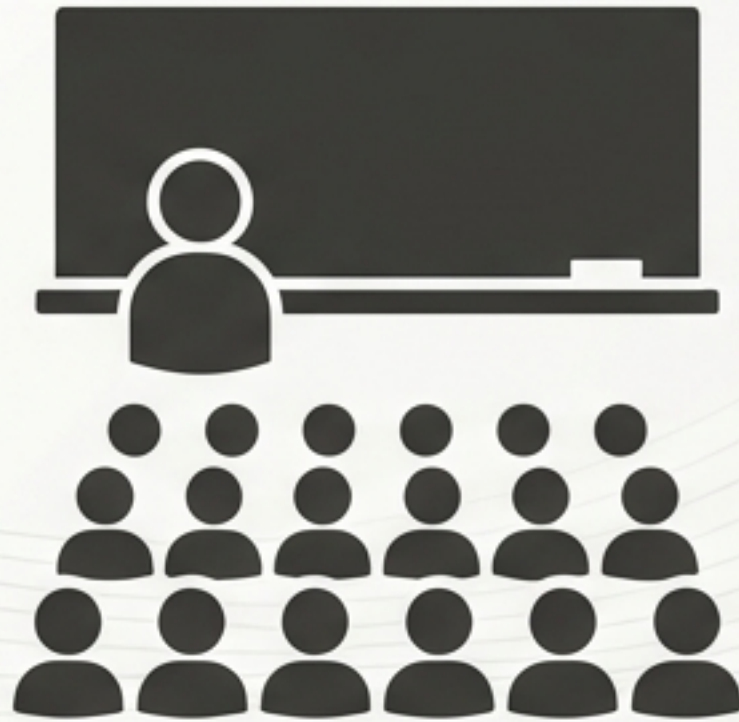
日本の教育の進化：一律から、一人ひとりへ 日本の教育の進化：一律から、一人ひとりへ

個別最適な学びを実現するための、新たな教育アプローチ

なぜ今、教育の変革が求められるのか

従来の一斉学習モデルとその課題

The Past: 一斉学習



効率的に知識を伝達する教授法

The Challenges: 課題

📌 学習の遅れと意欲低下

授業についていけない児童生徒と、既に理解している内容を繰り返される児童生徒が存在する

📌 主体性の育成不足

自己決定や表現の場面が少なく、主体的に学ぶ力が育ちにくい

国が示す、新しい教育の羅針盤

学習指導要領の改訂

知識再生型から、
汎用的な資質・能力の育成へ

「主体的・対話的で深い学び」

中央教育審議会答申

「令和の日本型学校教育」の構築

「個別最適な学びと、協働的な学び」の一体的な充実

These policies signal a fundamental shift from teacher-led instruction to student-centered learning.

「個別最適な学び」を実現する5つのアプローチ

⑤フリーカレンダーカリキュラム



④学習アセスメントの カスタマイズ



個別最適な
学び



①カスタマイズされた 学習コンテンツ

③テクノロジーの活用



②インディビデュアライズド ラーニング

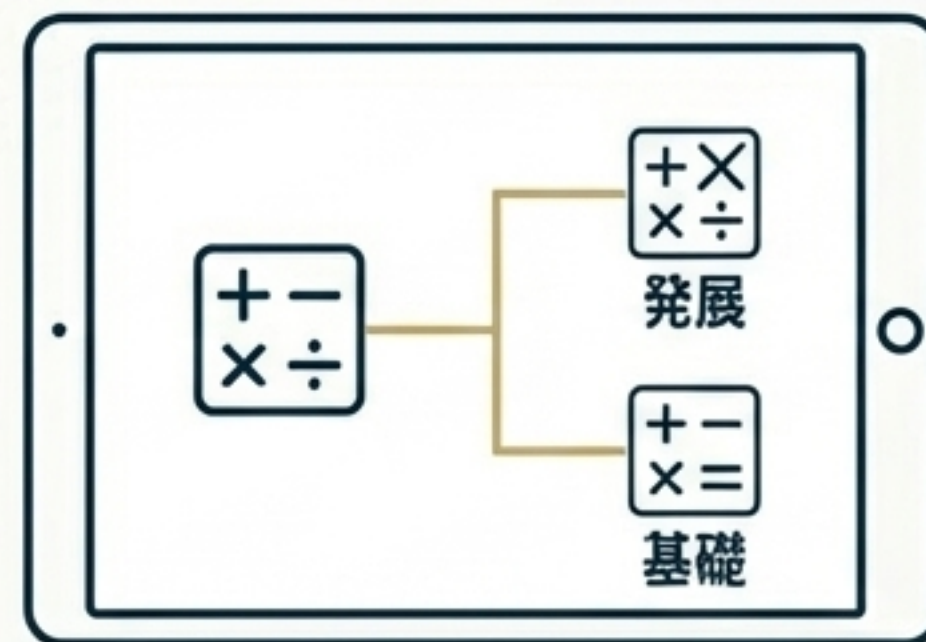


アプローチ①：学習者の興味と進度に応えるコンテンツ

児童生徒が自身の興味関心や能力、学習進度に応じて学習コンテンツを選択・アクセスできる環境が不可欠。

- 1人1台の情報端末とネットワーク環境

Example: デジタルドリル (AI)



- 学習ペースや理解度に応じて、教材のレベルや課題を自動で最適化
- 集約した学習ログを基に、教師が的確なサポートを提供



アプローチ②：学習スタイルに合わせた教授法と評価

児童生徒の特性（学習スタイル、ニーズ、理解度）に応じて教授法や評価方法を調整する。



視覚的
(Visual)

図や動画を活用



聴覚的
(Auditory)

音声や対話が主の教材



体験的
(Kinesthetic)

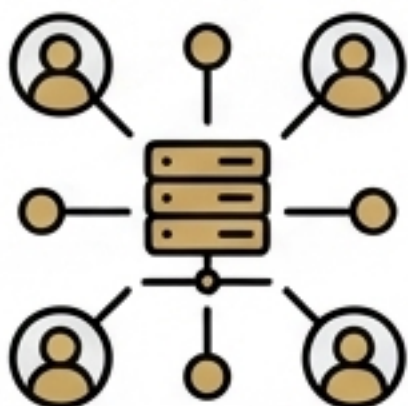
調査や観察等の
フィールドワーク

教師には、児童生徒の実態把握から教材準備まで多くの時間と労力が必要。支援体制の確立が重要。



アプローチ③：個別最適化を駆動するテクノロジーの3本柱

学習管理システム (LMS)



学習履歴や進捗を記録・分析し、個別の学習プランを提供

Example: Microsoft Teams,
Google Classroom

多様なコンテンツへの アクセス



興味関心に基づき、映像や音声教材で学びを深める

Example: NHK for School

評価の効率化



進捗状況を可視化し、教師が評価に費やす時間を学習支援に転換



アプローチ④：真の成長を捉える新しい評価の形

標準化されたテストによる一律の評価から、多様な能力や成長過程を測る評価へ

1. パフォーマンス評価 (Performance Assessment)

- What it is: 実際の問題解決や探究活動を通して、実践的なスキルを評価
- Examples: プレゼンテーション、ポスター制作
- What it measures: 協働する力、創造力、問題解決能力

2. ポートフォリオ評価 (Portfolio Assessment)

- What it is: 一定期間の課題や作品を収集しし、個々の成長や達成度を評価
- Benefit: 児童生徒自身が学びの過程を振り返り、自己認識を深める



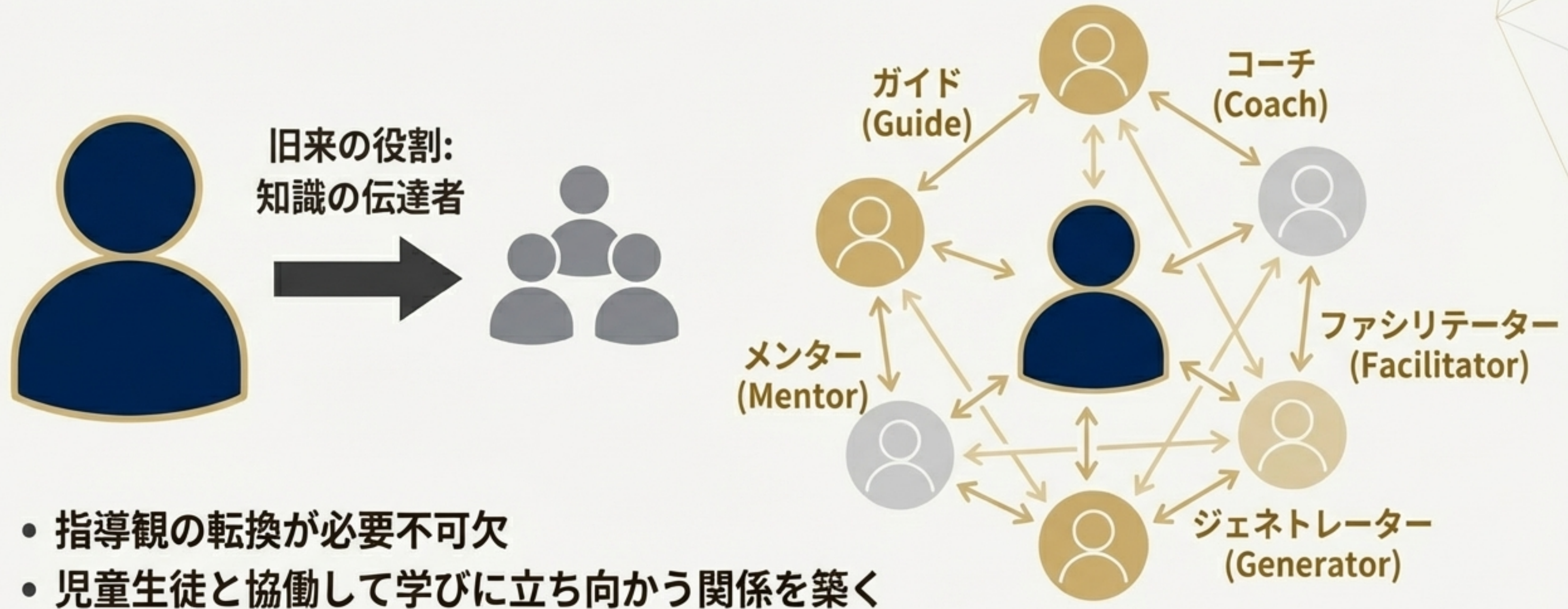
アプローチ⑤：自律性を育むフリーカレンダーカリキュラム

- 児童生徒が自身の目標や興味関心に合わせ、柔軟に学ぶ内容や活動を組み立てる教育モデル。
- 自律性や自己管理能力を養い、将来役立つスキルを育む
- LMS等を活用し、学習計画をデジタルで管理

⚠ 自己管理が苦手な児童生徒には、教師によるモチベーション維持や進捗管理などの手厚いサポートが不可欠。



教師の役割の変革：「教える人」から「学びの支援者」へ



新しい時代の教師が持つべき「6つの顔」

1. ティーチャー (Teacher)

学習内容や指示をわかりやすく伝える

2. ガイド (Guide)

学びの案内役として、課題解決への見通しがもてるように助言する

3. コーチ (Coach)

児童生徒の強みを引き出し、成長の手助けをする

4. メンター (Mentor)

個々の児童生徒の相談役として寄り添い、適切な方向づけをする

5. ファシリテーター (Facilitator)

児童生徒の協働学習を深めるための場づくりを行う

6. ジェネレーター (Generator)

児童生徒と一緒に問いに向かい、課題解決に参画する

学力だけではない、人間性を育む教育へ

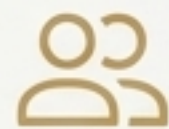
社会的・情緒的学習（Social and Emotional Learning）の重視



感情のコントロールや
自己肯定感を育む



前向きに学習に取り組む
姿勢につながる



他者との関係を構築する力を育てる

教師の役割：児童生徒の感情に寄り添い、信頼関係を築くことが鍵となる

成長を加速させる継続的な評価とフィードバックの環

学習の調整
フィードバックを基に、児童生徒が自らの学びを調整し、成長を実感

的確なフィードバック
分析結果に基づき、個々に最適化されたフィードバックを提供

継続的な評価
児童生徒の学習状況（進度、理解度、得意・不得意）を詳細に把握

データの収集・分析
LMSやAI評価ツールがリアルタイムでデータを収集・分析



すべての子供たちの可能性を引き出すために

-  **WHY** ・一斉学習の限界を超え、変化する社会に対応するために
-  **HOW** ・5つのアプローチとテクノロジーの活用を通して
-  **WHO** ・「支援者」へと役割を変えた教師と共に

**教師は、常に目の前の児童生徒の特性やニーズに寄り添い、
教育のカスタマイズと個別化を通して、
個別最適な学びを実現し続けていくことが大切である。**